

# 中小企業景況調査報告書

平成31年4月～令和元年6月期実績 / 令和元年7月～9月期見通し

令和元年6月

宮崎県商工会連合会

# 中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。  
本県分の調査結果は次のとおりです。

## 1. 調査対象期間

平成31年4月～令和元年6月期を対象とし、調査は令和元年5月14日から6月1日の間に実施しました。なお、令和元年7月～9月期は予測値となります。

## 2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

## 3. 対象地区

宮崎市生目、中郷、佐土原町、高崎町、すき、国富町、西米良村、木城町、諸塚村、日之影町の10商工会地区。

## 4. 回答企業数

150企業のうち、147企業の回答を得た(有効回答率98.0%)。

業種	調査対象企業数(%:構成比)		有効回答企業数(%:構成比)		有効回答率(%)
製造業	27	18.0%	27	18.4%	100.0%
建設業	24	16.0%	23	15.6%	95.8%
小売業	45	30.0%	44	29.9%	97.8%
サービス業	54	36.0%	53	36.1%	98.1%
合計	150	100.0%	147	100.0%	98.0%

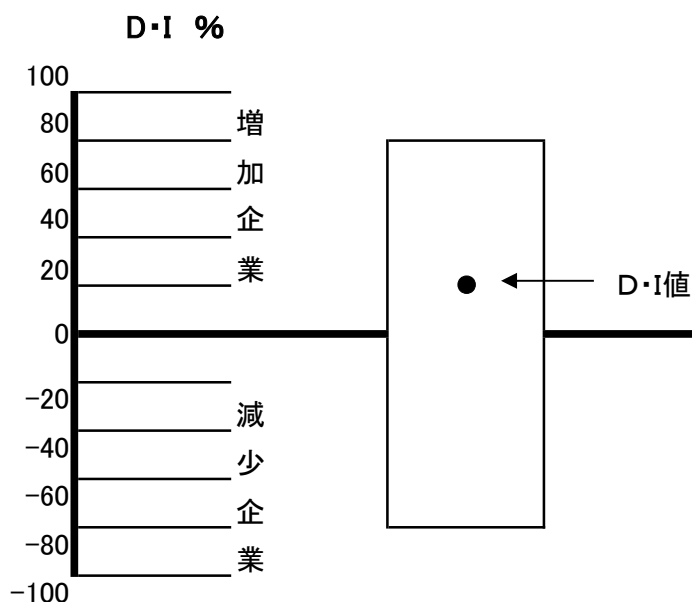
## 5. その他

### (1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



### (2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

## I 全産業全体の状況

### 主要景気動向指数(D・I)

項目	平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和元年	令和元年
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲8.5	▲11.9	▲10.6	▲18.9	▲13.9	▲9.3
採算	▲7.7	▲12.9	▲9.7	▲15.0	▲3.1	▲9.1
資金繰り	▲4.6	▲2.4	▲8.0	▲13.9	▲5.5	▲7.0
業況	▲1.2	▲9.9	▲13.4	▲12.5	▲7.6	▲7.5

いずれも前年同期と比較したものの。

#### <主要景況項目の概況>

##### ◎売上高

今期(平成31年4月～令和元年6月)の売上高のD・Iは、▲13.9ポイントとなって、直前四半期の▲18.9ポイントより改善した。製造業で悪化したが、建設業はほぼ横ばい、小売業、サービス業では改善した。来期については▲9.3ポイントと今期より改善を見込んでいる。

##### ◎採算

採算のD・Iは、▲3.1ポイントとなっており、直前四半期の▲15.0ポイントより改善している。建設業でプラス圏に浮上し大きく改善した他、製造業、小売業も改善傾向を示し、サービス業はほぼ横ばいであった。来期については、▲9.1ポイントと悪化を見込んでいる。

##### ◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲5.5ポイントで、直前四半期より改善している。製造業、建設業、小売業で改善し、サービス業ではほぼ横ばいであった。来期について、全体で▲7.0ポイントであり、当期より悪化を見込んでいる。

##### ◎業況

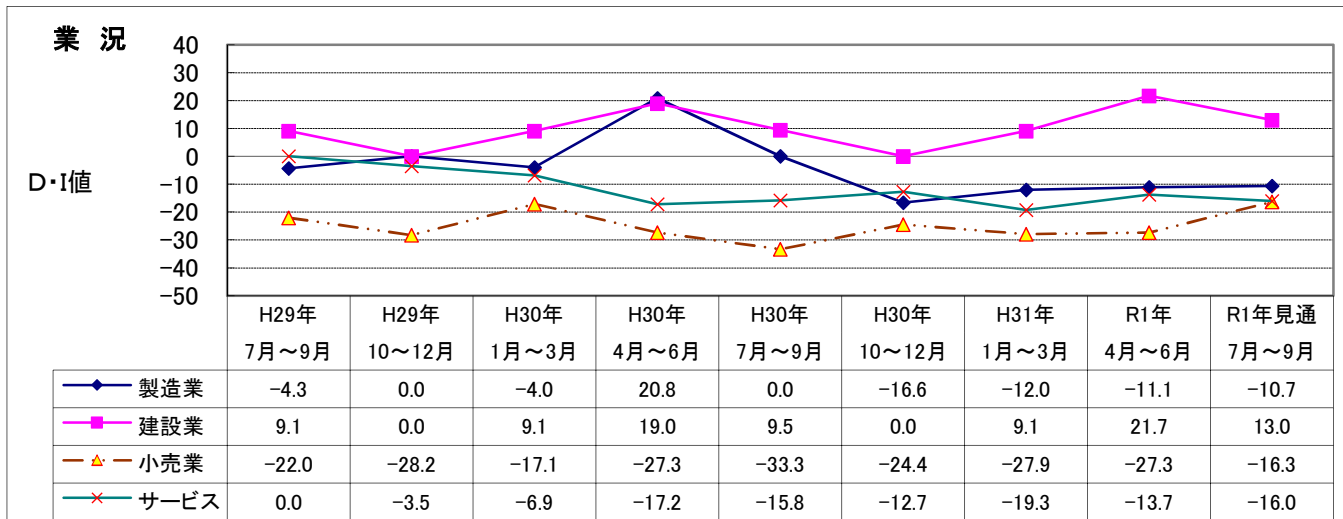
業況のD・Iは、▲7.6ポイントで、前期に比べて改善している。来期は▲7.5ポイントとほぼ横ばいである。

内閣府の令和元年6月発表の月例経済報告では、「景気は、輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している。先行きについては、当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。通商問題の影響が世界経済に与える影響に一層注意するとともに、中国経済の先行き、海外経済の不確実性や金融資本市場変動の影響に留意する必要がある。」としており、景気の基調判断に変更はない。日本銀行宮崎事務所の6月5日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、緩やかな回復を続けている。個人消費は、底堅く推移し、観光は、堅調な動きとなっている。住宅投資や生産は、横ばい圏内で推移している。公共投資は、持ち直している。また、人手不足感は、強い状況が続いている。」としており、基調判断としては、前回の判断と変更はない。今回の調査結果では、調査対象企業の一部業種では、業況の回復が見られるところである。

製造業	売上は悪化し、採算と資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上は改善し、採算と資金繰りは悪化を見込んでいる。
建設業	完成工事額は、ほぼ横ばい、採算と資金繰りは改善という結果になった。次期の見通しは、売上は横ばいで、採算と資金繰りは悪化を見込んでいる。
小売業	売上、採算、資金繰りの全てで改善という結果となった。次期は売上は改善、採算と資金繰りは当期と同じと見込んでいる。
サービス業	売上は改善し、採算と資金繰りはほぼ横ばいという結果となった。次期は売上は悪化、採算は横ばい、資金繰りは改善を見込んでいる。

<経営上の問題点について>

製造業と建設業では、「従業員の確保難」が、小売業とサービス業では、「需要の停滞」が経営上の問題点として上位に位置付けられている点は従来の調査結果と変わりはない。それぞれの業種で上位に位置付けられる課題が異なるのは業況が異なっているためである。10月には消費税率の引き上げが予定されており、駆け込み需要の取り込みも必要になってくるものと思われる。

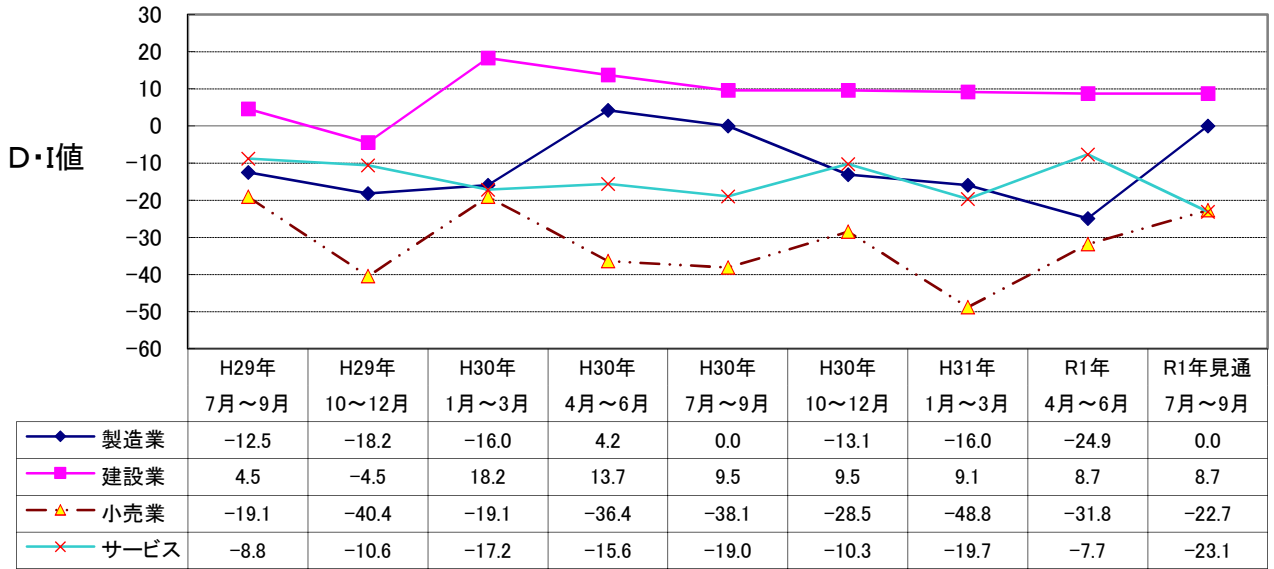


(業況天気図)

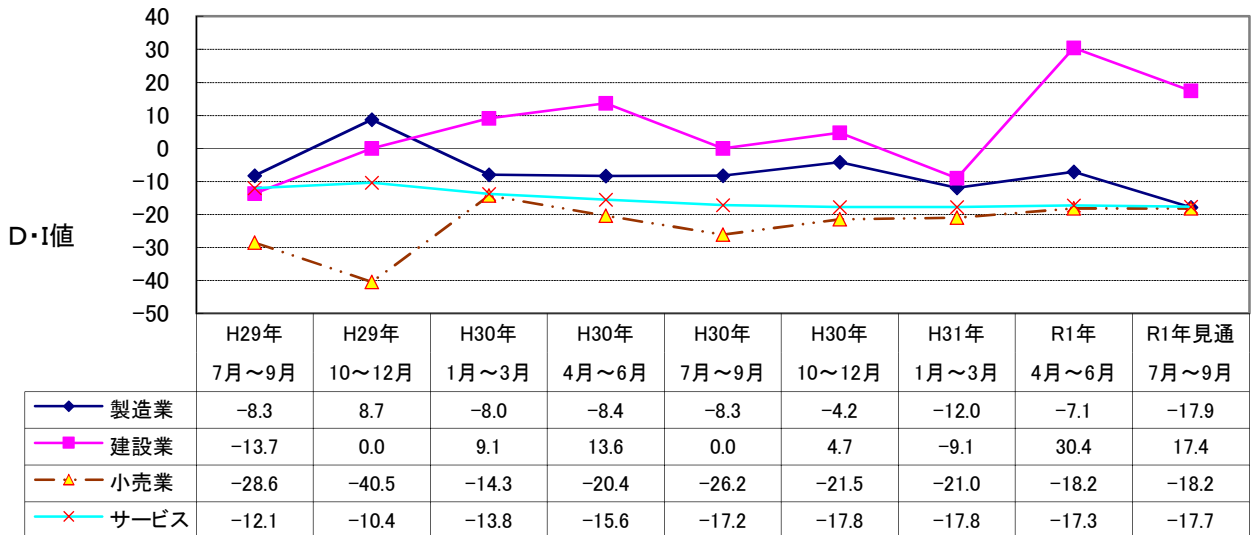
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
4月から6月 実績	曇	晴時々曇	曇時々雨	曇
D-I値	▲ 11.1	21.7	▲ 27.3	▲ 13.7
7月から9月 見通し	曇	うす曇	曇時々雨	曇時々雨
D-I値	▲ 10.7	13.0	▲ 16.3	▲ 16.0
傾向	→	↘	→	→

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

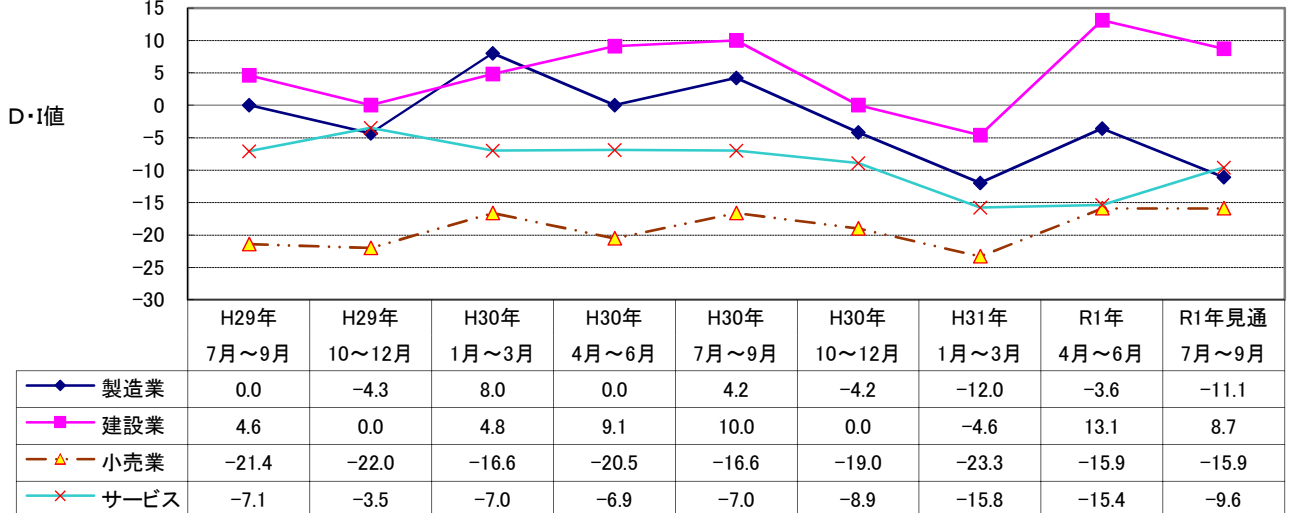
### 売上額(加工・完成)の推移



### 採算の推移(経常利益)





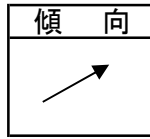
### 資金繰り



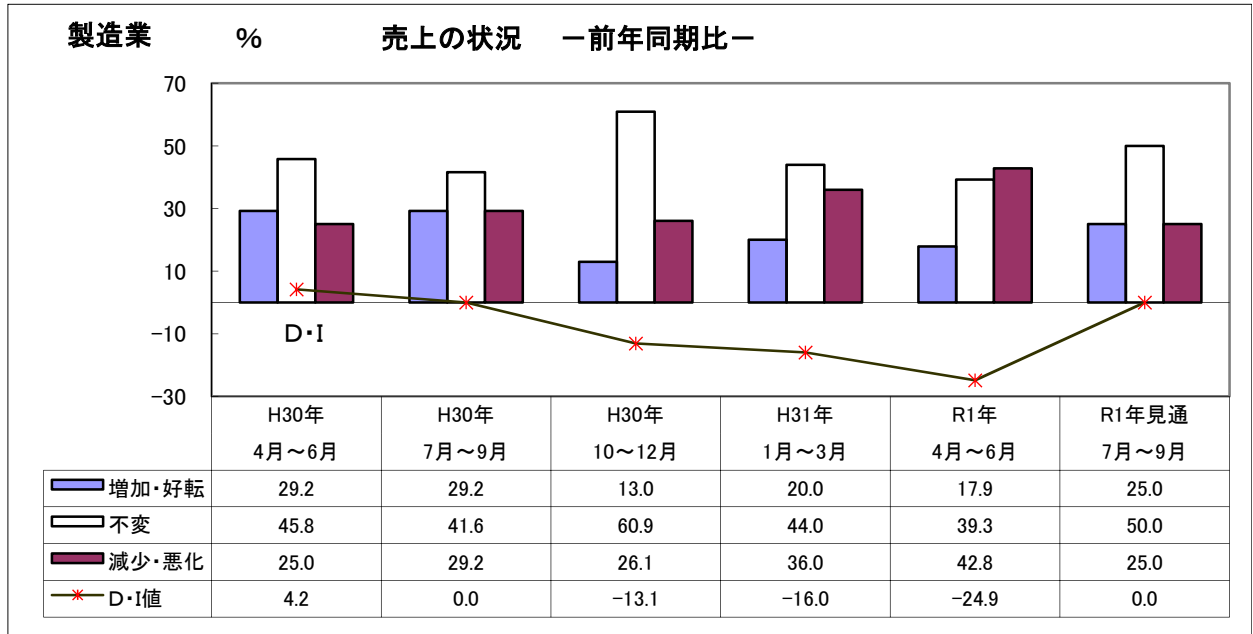
## II 製造業の景況

### (1) 売上(加工)額の推移



31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	うす曇
▲ 24.9	0.0

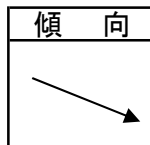


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したため、D・Iは-24.9ポイントと、前期と比べて悪化した。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは当期より改善を見込んでいる。

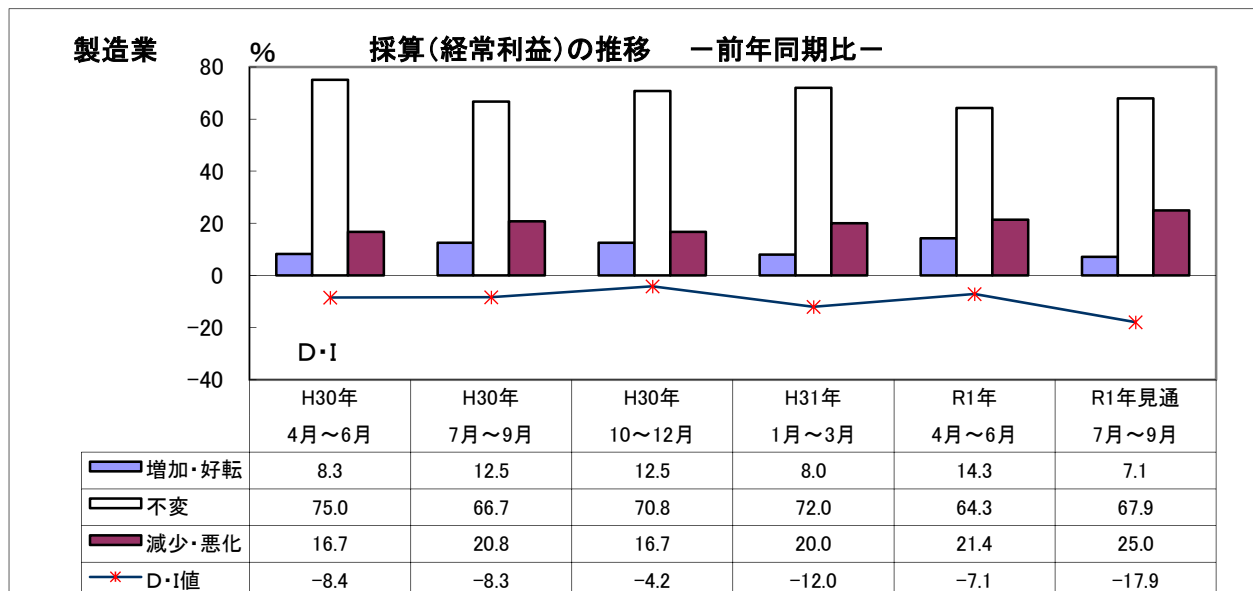


### (2) 採算(経常利益)の推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇	曇時々雨
▲ 7.1	▲ 17.9

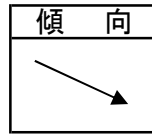


当期の採算のD・Iは、-7.1ポイントで、直前四半期の数値から改善した。「減少・悪化」の企業が増加したものの、「増加・好転」の企業も増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、当期から悪化する予想となっている。

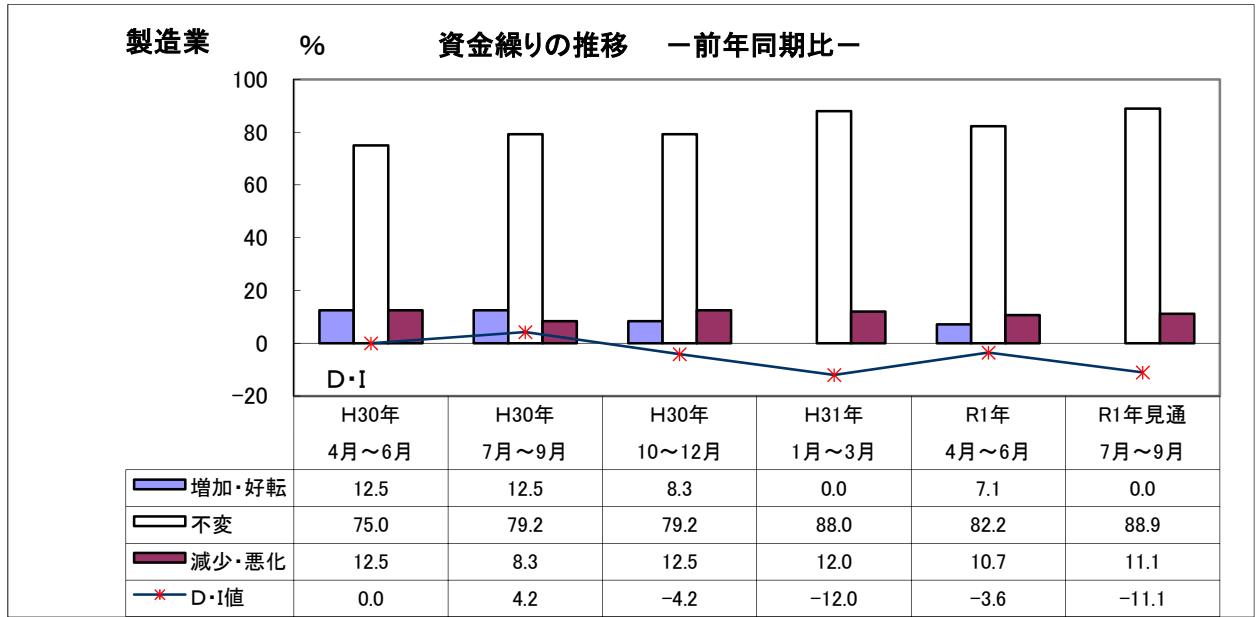


### (3) 資金繰りの推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
曇	曇
▲ 3.6	▲ 11.1

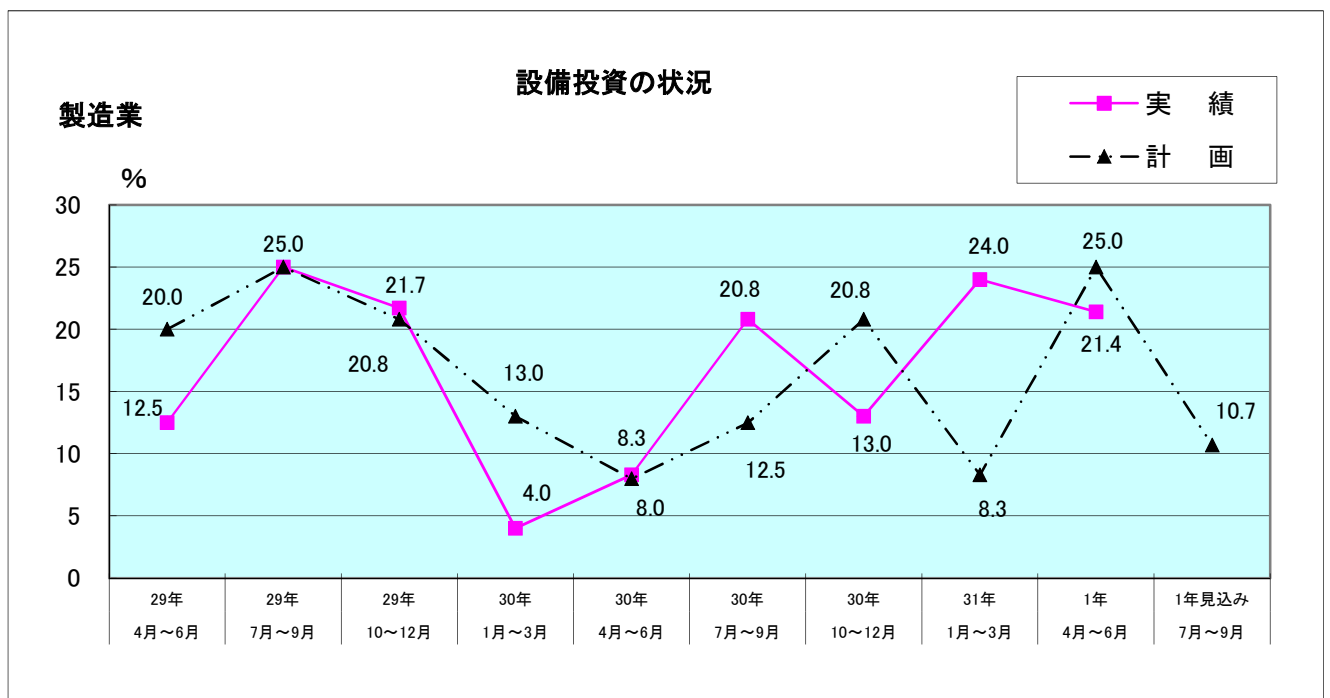


当期の資金繰りのD・Iは、-3.6ポイントとなり、前期より改善した。「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、資金繰りのD・Iは、当期よりも悪化を見込んでいる。



### (4) 設備投資の推移

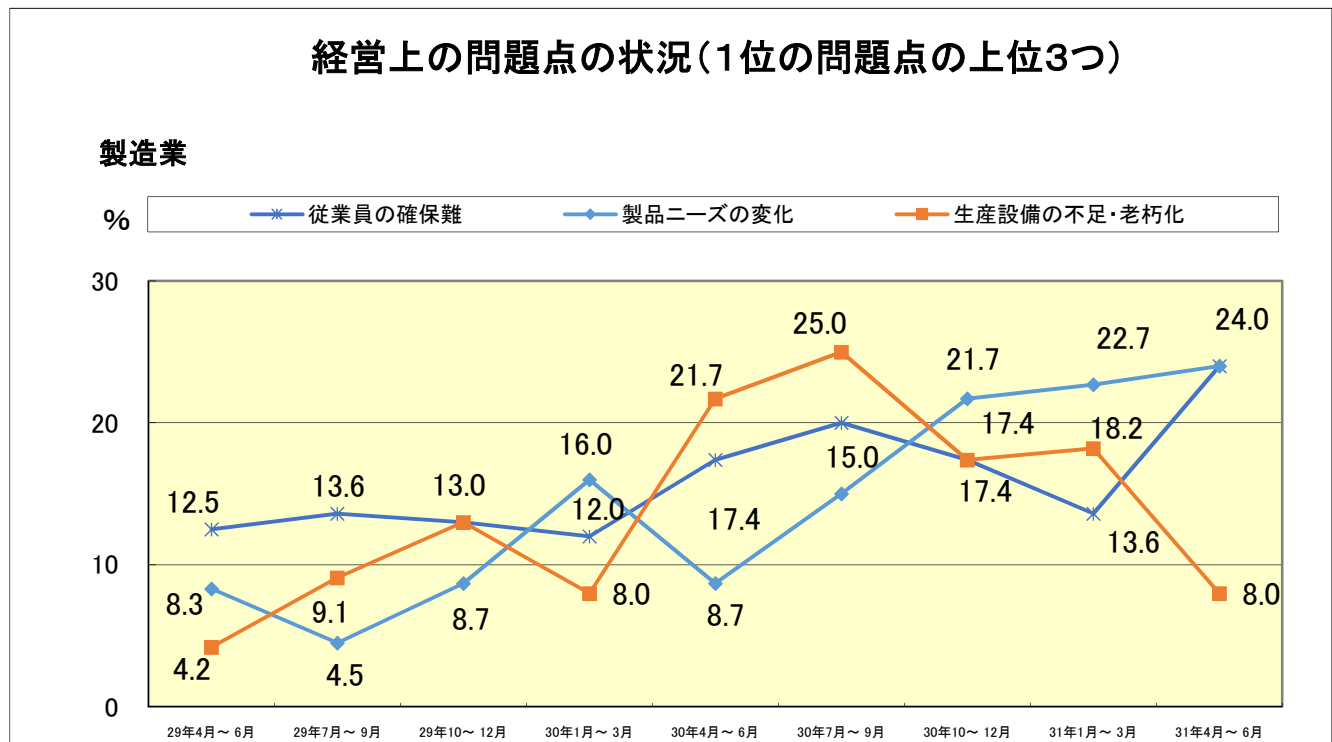
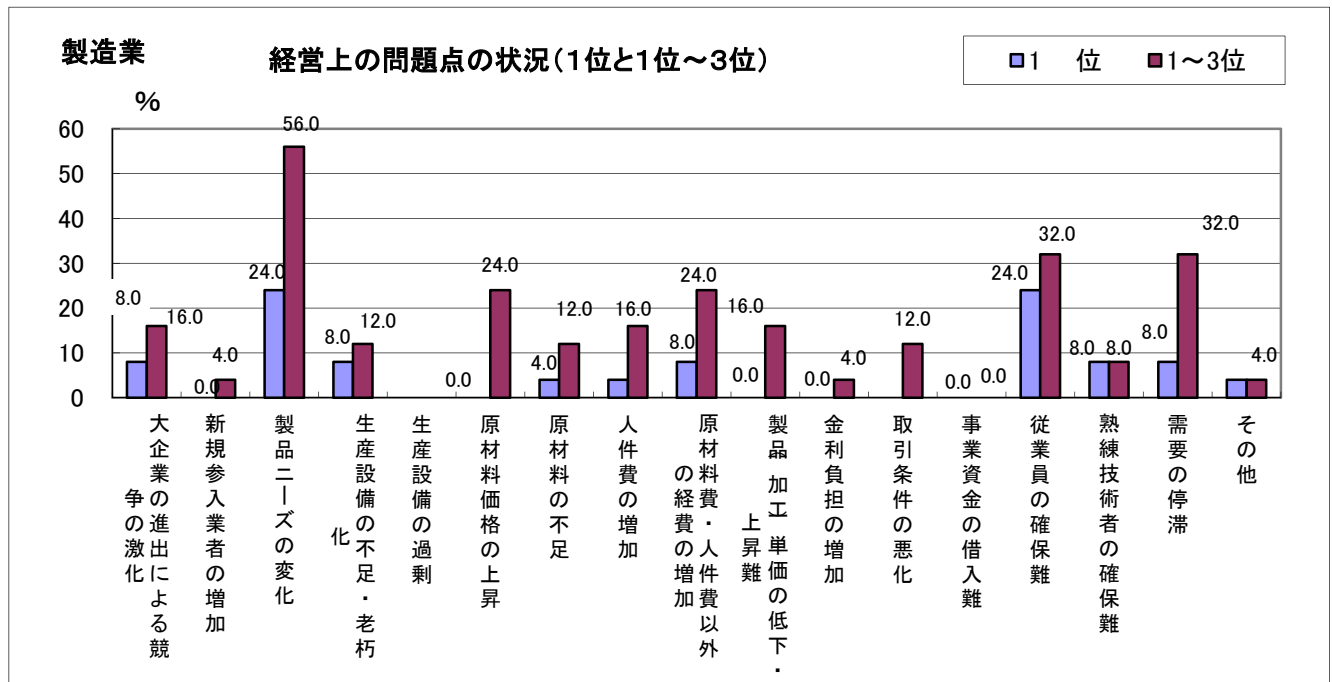
当期の設備投資計画は25.0%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は21.4%となり、実績は計画を下回った。次の四半期は10.7%の企業が計画している。内容は工場建物、生産設備、車両運搬具等となっている。







## (5) 経営上の問題点

経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が同率で「製品ニーズの変化」、「従業員の確保難」、2位が同率で「生産設備の不足・老朽化」、「大企業の進出による競争の激化」、「需要の停滞」、「熟練技術者の確保難」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「製品ニーズの変化」、2位が同率で「需要の停滞」、「従業員の確保難」、3位が「原材料価格の上昇」、「原材料費・人件費以外の経費の増加」となった。1位グループ、1位～3位グループともに前回の調査結果同様、製品ニーズの変化が1位となっている。



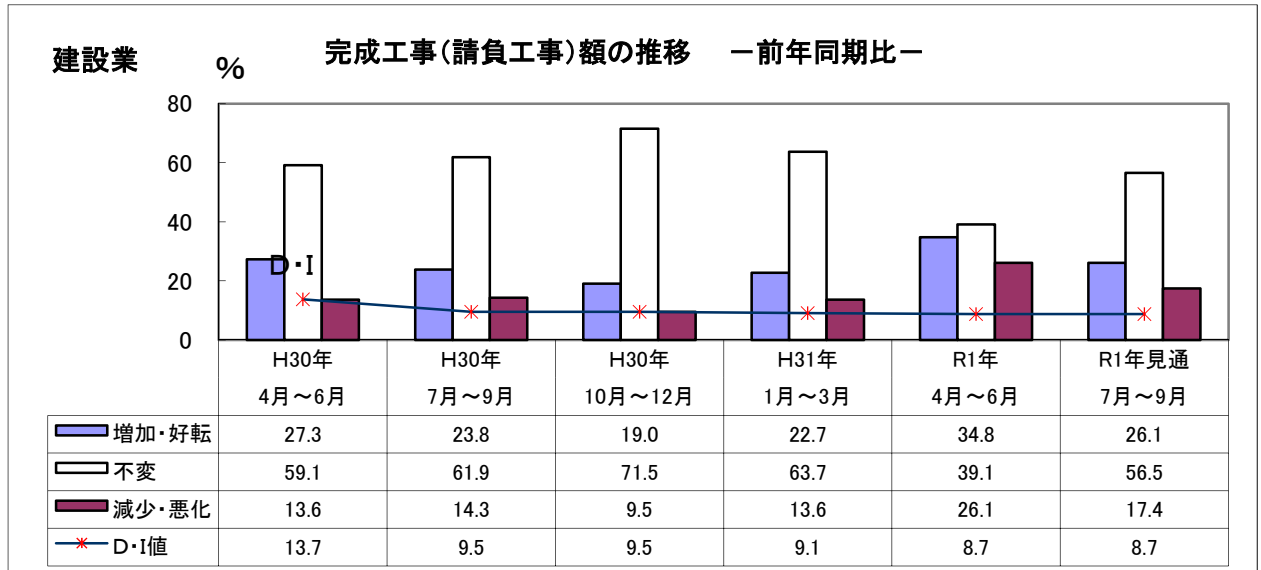
### Ⅲ 建設業の景況

#### (1) 完成工事額の推移



31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
うす曇	うす曇
8.7	8.7

傾 向
→

当期の完成工事額のD・Iは、8.7ポイントとなり、前期とほぼ横ばいである。「増加・好転」とする企業と「減少・悪化」とする企業が同じ割合で増加したためである。次の四半期については、「減少・悪化」の企業は減少するが、「増加・好転」の企業も減少するため、完成工事額のD・Iは、当期と同じ8.7ポイントとなっている。

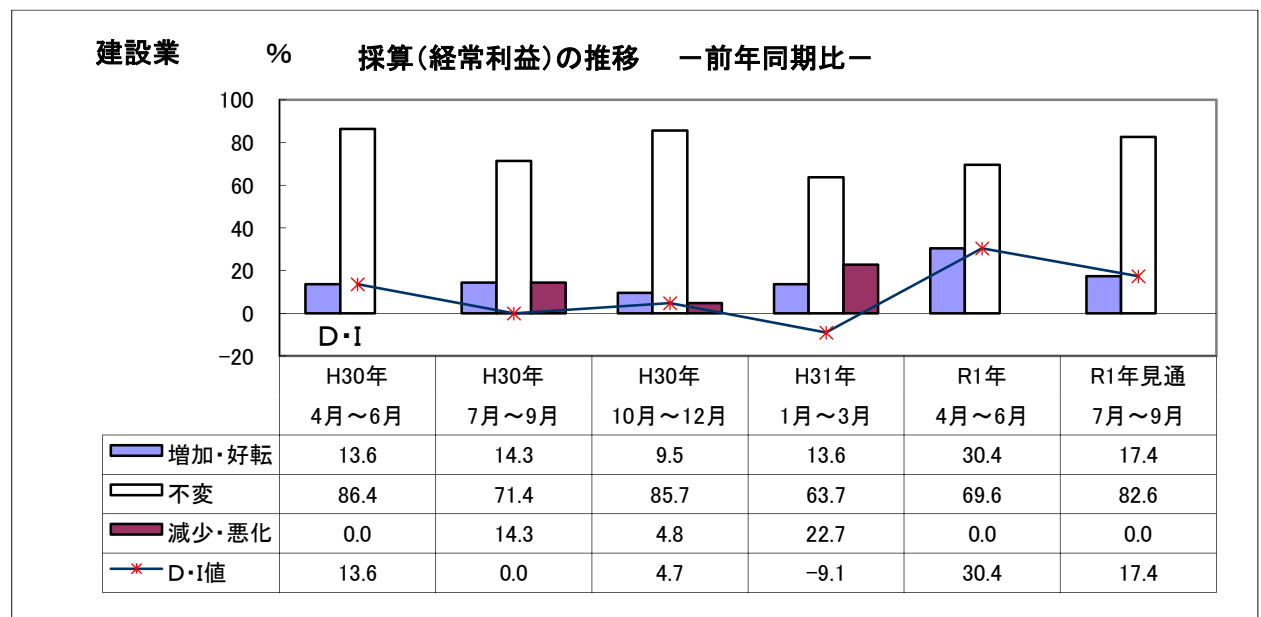


#### (2) 採算(経常利益)の推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
晴	晴時々曇
30.4	17.4

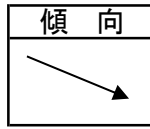
傾 向
↘

当期の採算のD・Iは、30.4ポイントであった。前期より大きく改善している。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業も減少し0.0となったためである。次の四半期は、「減少・悪化」とする企業は当期と同じ0.0であるが、「増加・好転」とする企業が減少するため、D・Iは、当期より悪化を見込んでいる。

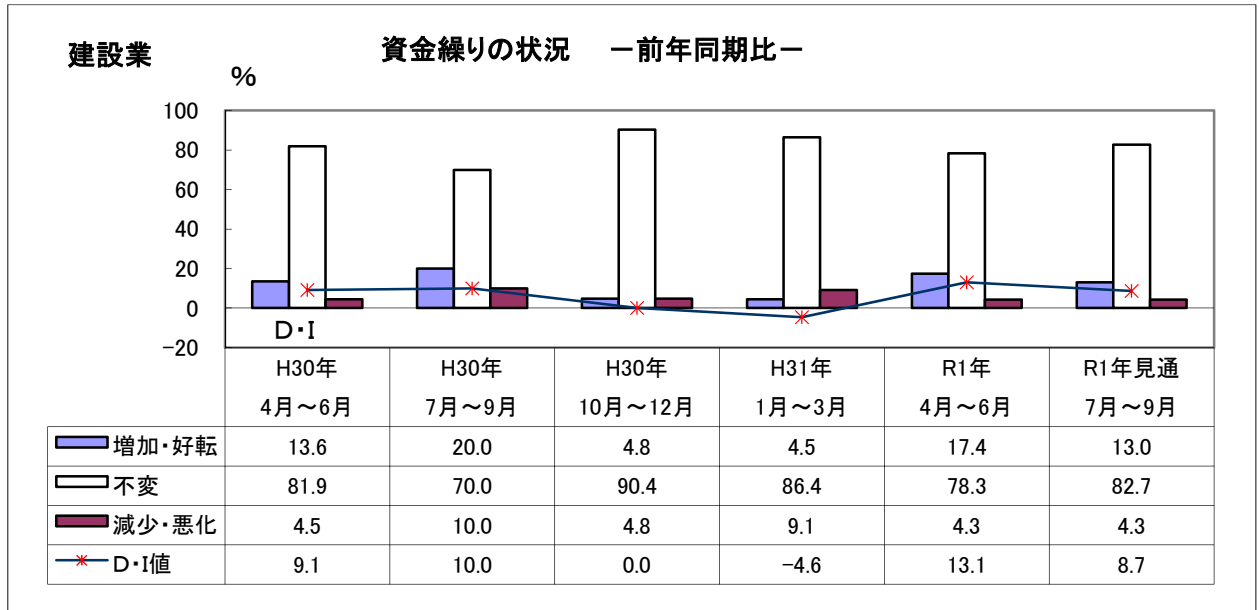


### (3) 資金繰りの推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
うす曇	うす曇
13.1	8.7

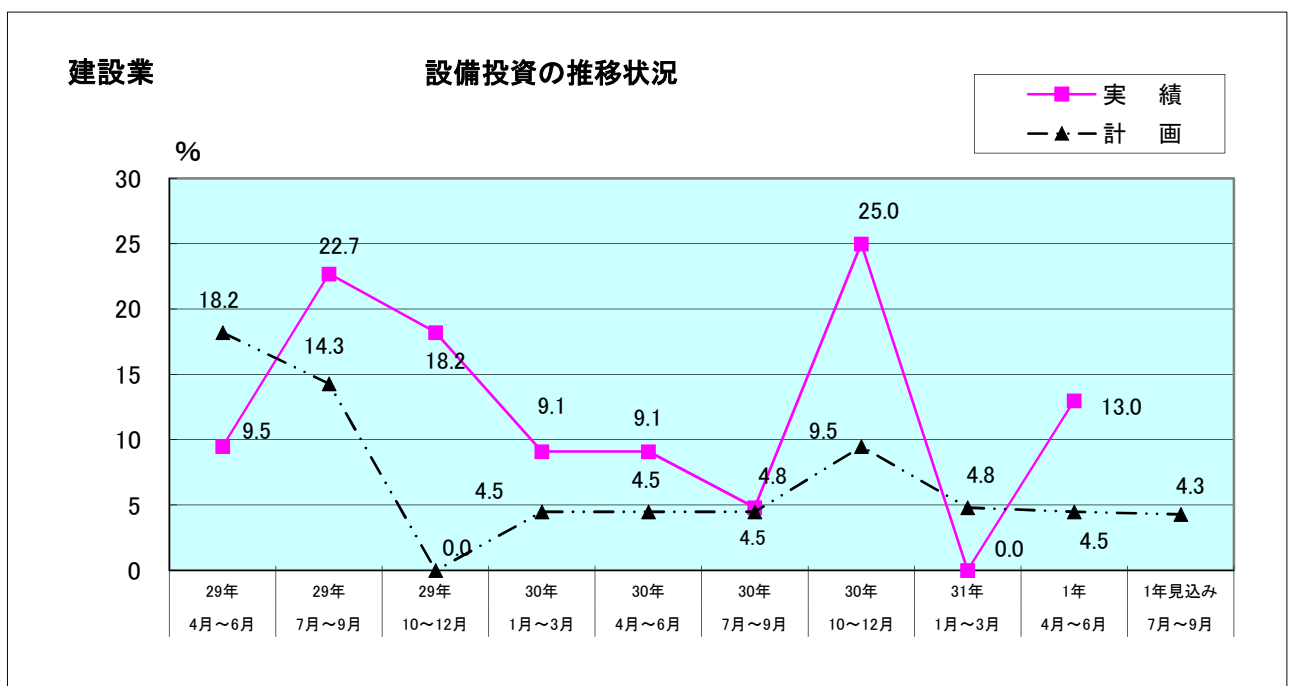


資金繰りのD・Iは13.1ポイントと、前期に比べて改善する結果となった。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期については、「減少・悪化」とする企業が当期と同じであるが、「増加・好転」とする企業が減少するため、D・Iは、8.7ポイントと悪化を見込んでいる。



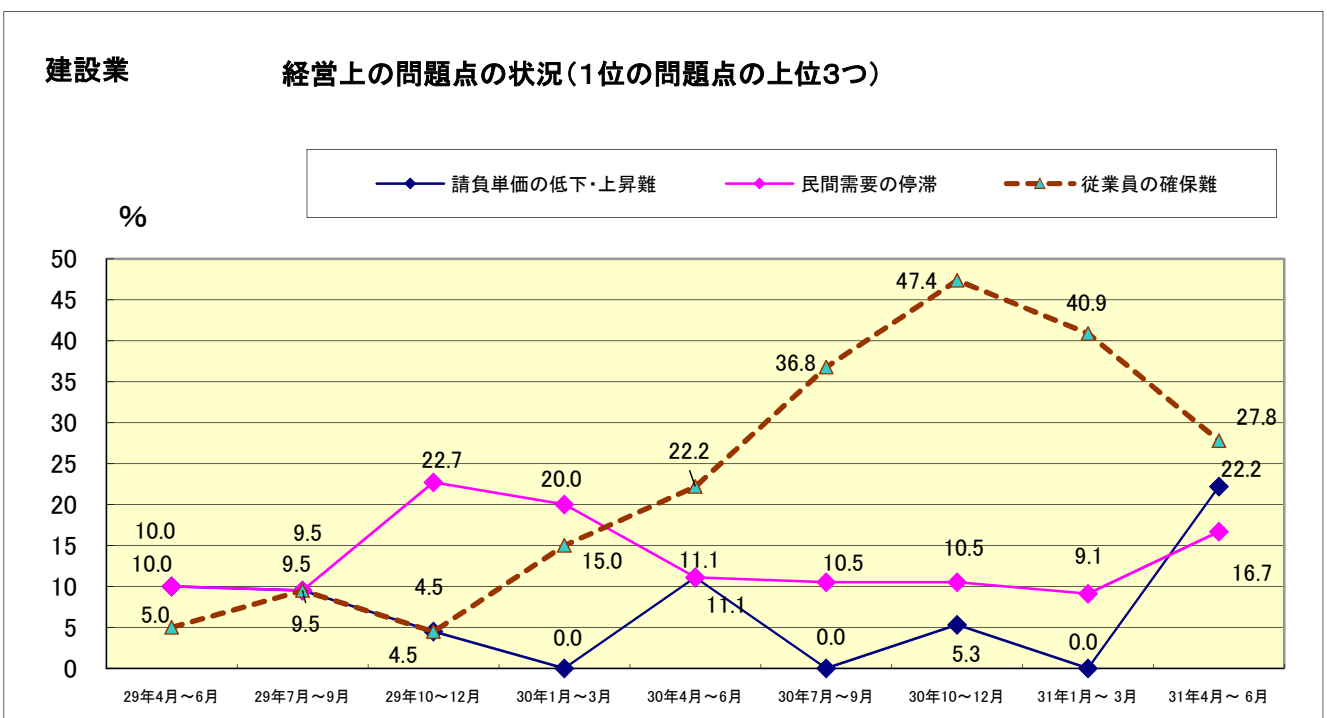
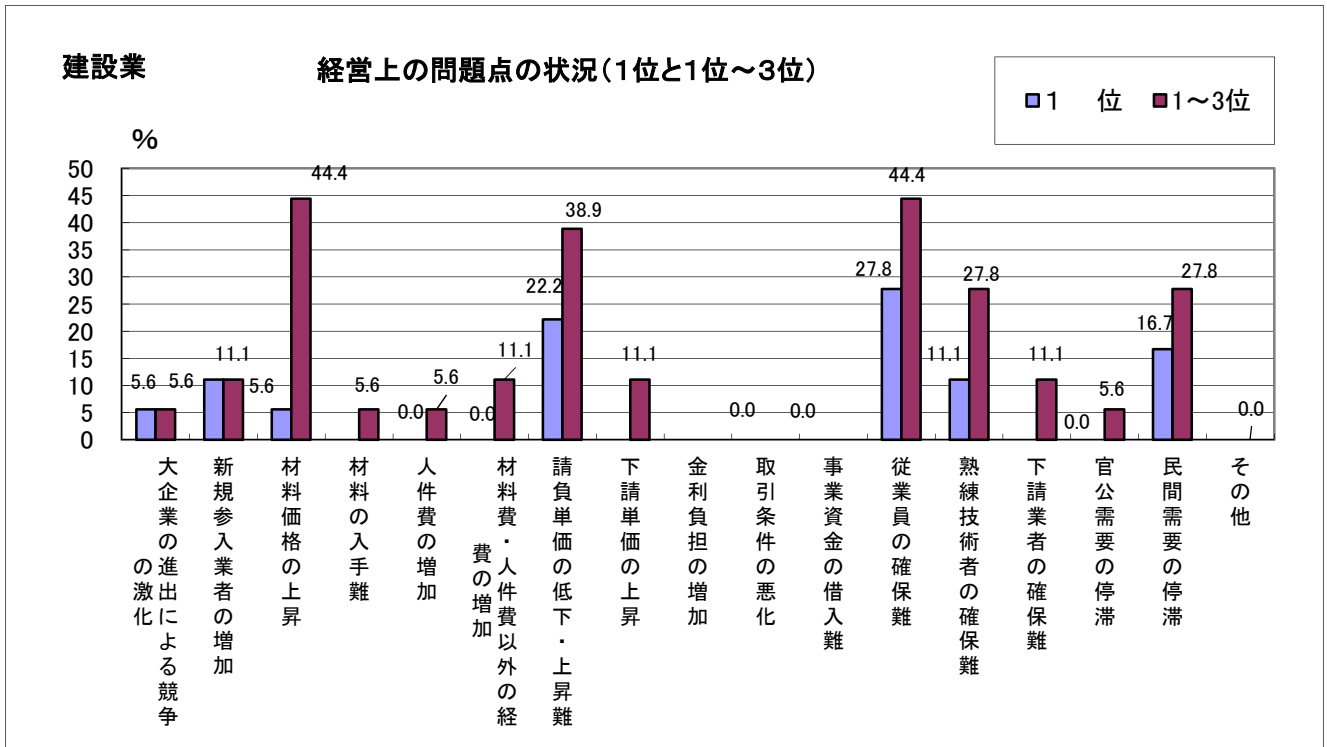
### (4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は4.5%であったが、実際に投資を行った企業は13.0%であった。次の四半期に設備投資を計画している企業は4.3%という結果となっている。投資対象は車両運搬具である。





## (5) 経営上の問題点


経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「従業員の確保難」、2位が「請負単価の低下・上昇難」、3位が「民間需要の停滞」となった。(1位～3位グループ)では、1位が同率で、「従業員の確保難」、「材料価格の上昇」、2位が「請負単価の低下・上昇難」、3位が「熟練技術者の確保難」、「民間需要の停滞」であった。前回の調査から継続して、「従業員の確保難」が上位となっており人手の確保が経営上の課題となっている。



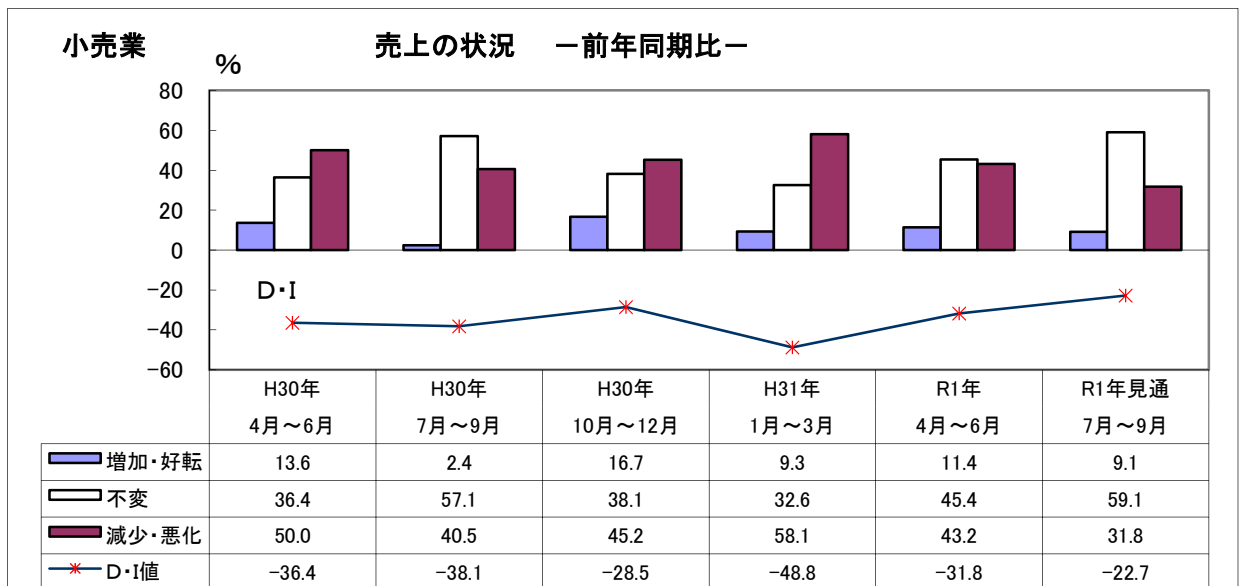
## IV 小売業の景況

### (1) 売上額の推移



31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
雨	曇時々雨
▲ 31.8	▲ 22.7

傾 向


当期の売上のD・Iは-31.8ポイントで、直前期の-48.8ポイントより改善した。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。客数で改善傾向が見られる。次期四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iはさらに改善する。

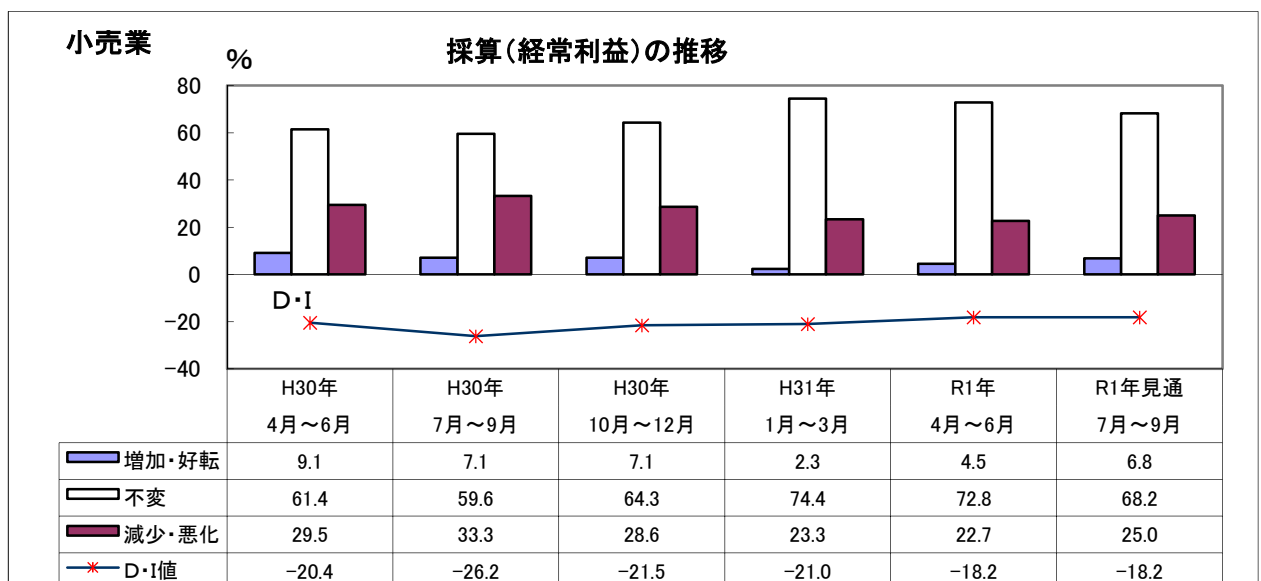


### (2) 採算(経常利益)の推移



31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 18.2	▲ 18.2

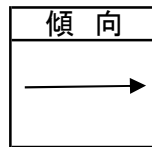
傾 向


当期の採算のD・Iは-18.2ポイントで、前期より改善した。「減少・悪化」とする企業がほぼ横ばいであったが、「増加・好転」とする企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業と、「減少・悪化」とする企業の増加が同じ割合のため、D・Iは当期と同じ数値となっている。

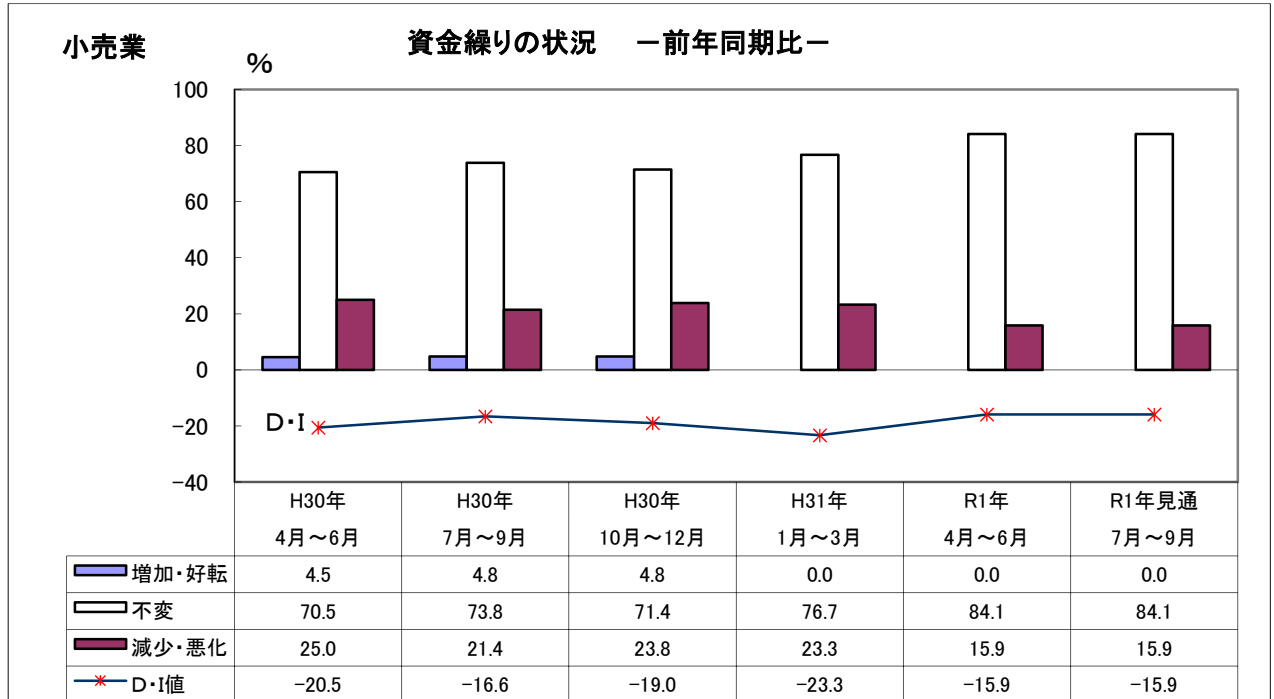


### (3) 資金繰りの推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 15.9	▲ 15.9

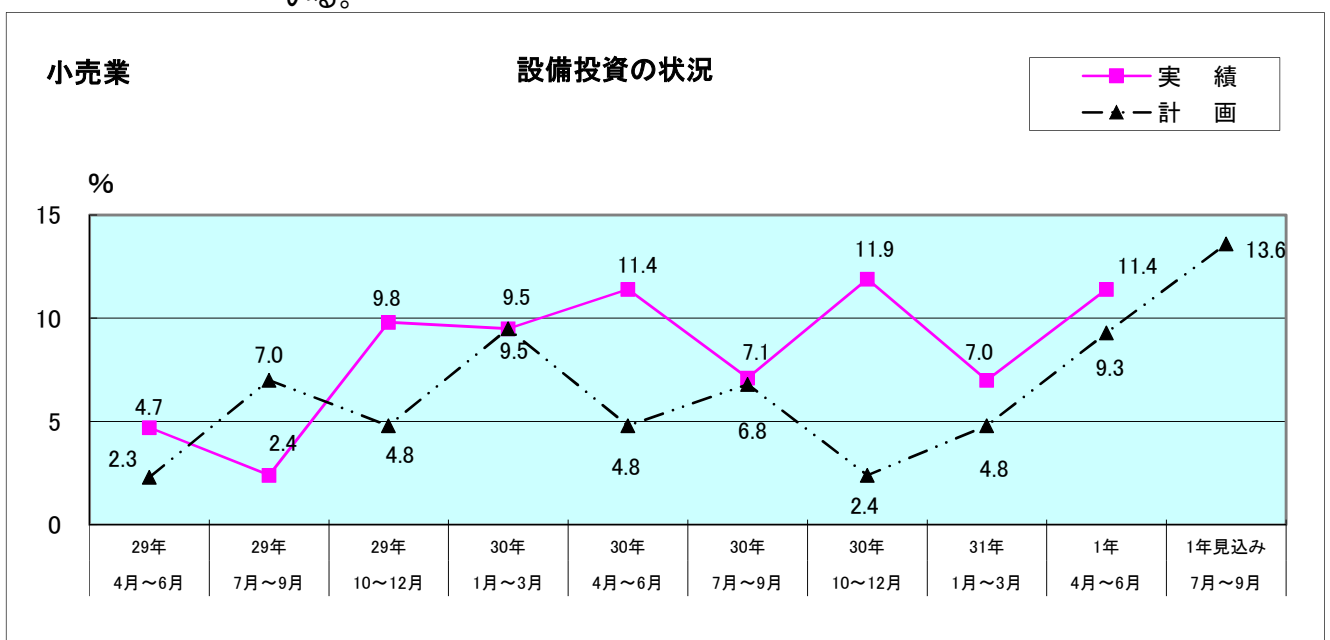


当期の資金繰りのD・Iは-15.9ポイントで、直前期の-23.3ポイントより改善した。「増加・好転」とする企業は前期と同じ0.0であったが、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次期四半期は「増加・好転」の企業、「減少・悪化」の企業が当期と同じであるため、D・Iは当期と同じである。



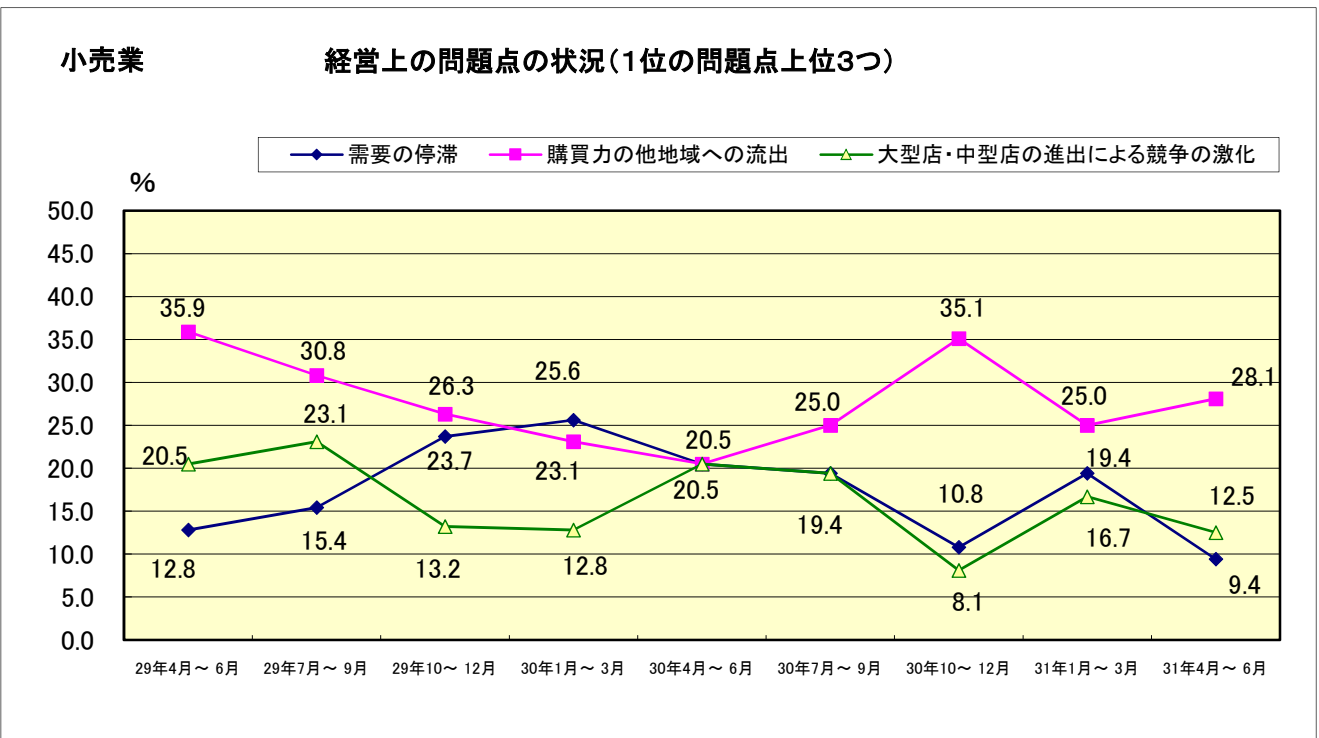
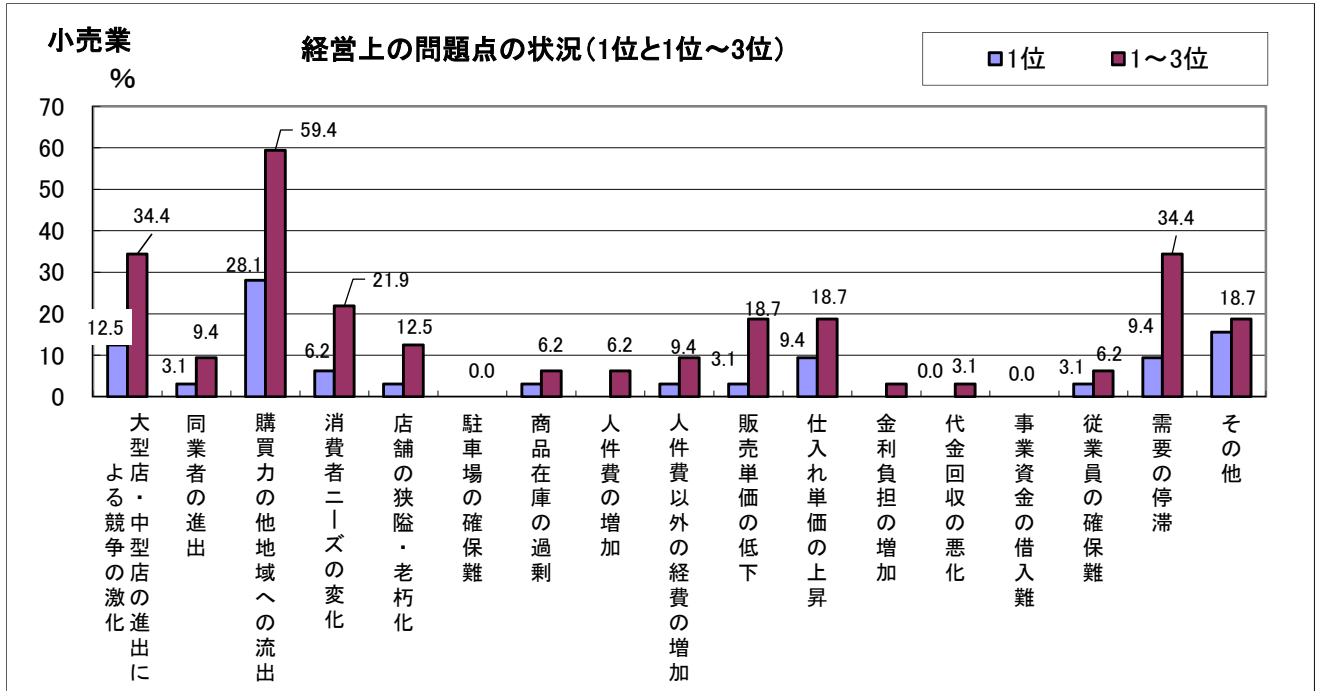
### (4) 設備投資の推移

設備投資は9.3%の企業が計画し、実際に実施した企業は11.4%となった。投資対象は販売設備、車両運搬具となっている。次の四半期の見通しは、計画が13.6%で、対象は販売設備、付帯設備等となっている。





## (5) 経営上の問題点

経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「購買力の他地域への流出」、2位が「大型店・中型店の進出による競争の激化」、3位が同率で「需要の停滞」、「仕入れ単価の上昇」であった。(1位から3位グループ)では「購買力の他地域への流出」が1位で、2位が同率で「需要の停滞」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」、3位が「消費者ニーズの変化」であった。経営上の問題点は過去の調査結果からは変わらず、中小小売店にとって厳しい競争環境が継続している。



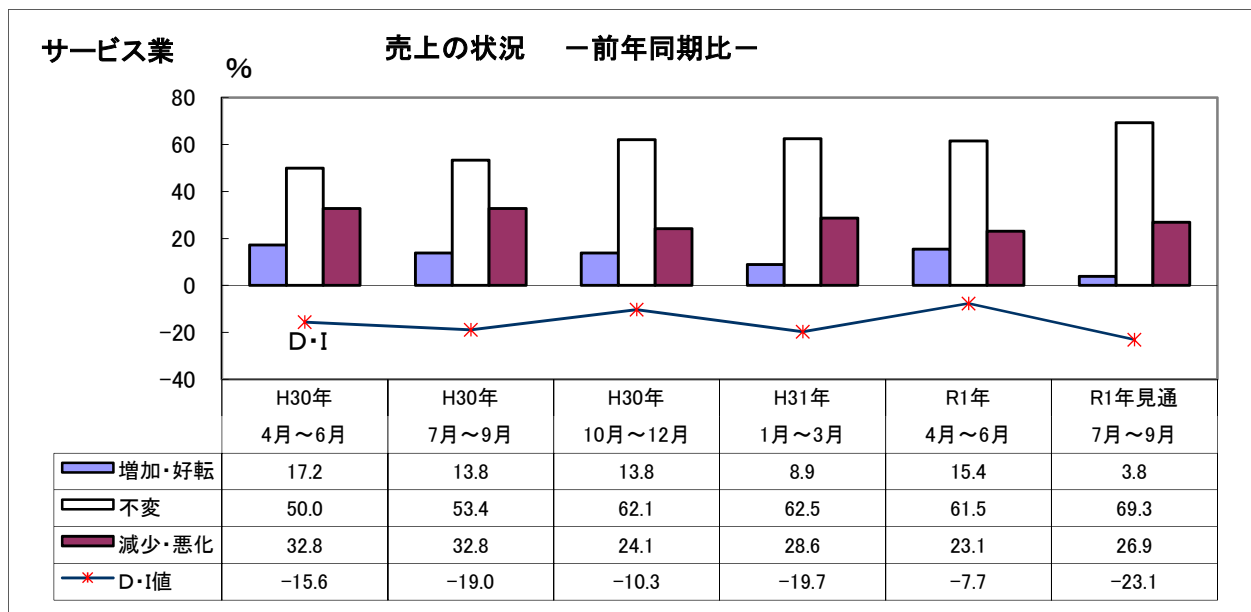
## V サービス業の景況

### (1) 売上額の推移



31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇	曇時々雨
▲ 7.7	▲ 23.1

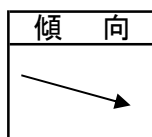


当期の売上のD・Iは、-7.7ポイントと前期より改善している。「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少したためである。客単価、利用客数で改善傾向を示している。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、D・Iは当期より悪化する。

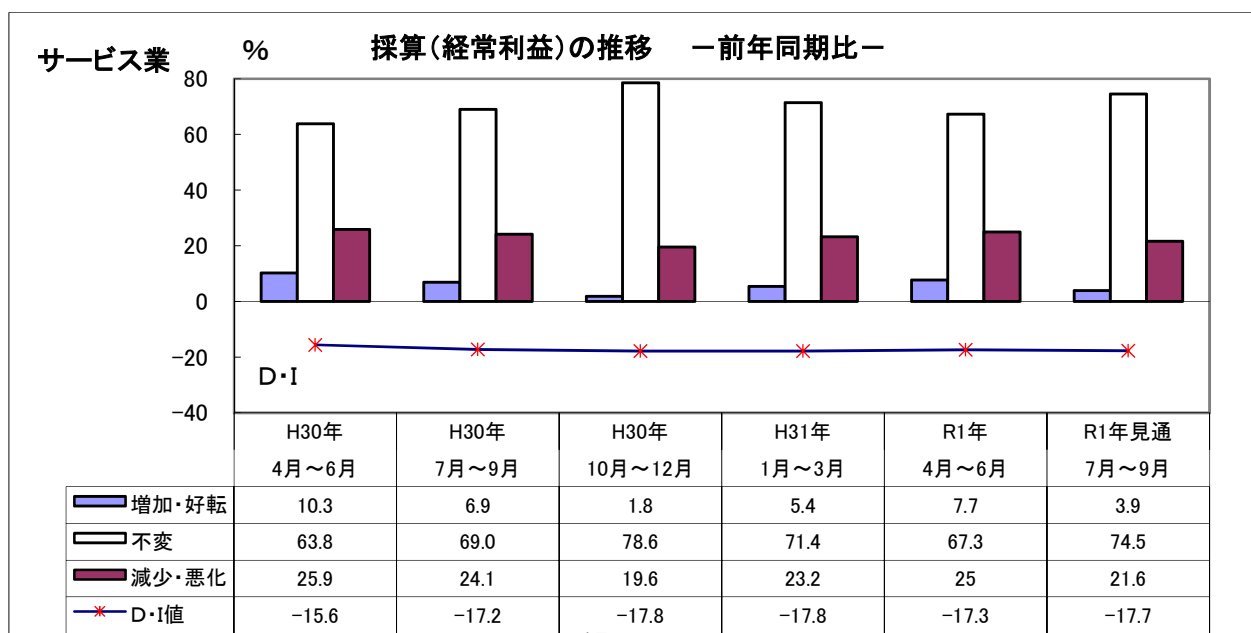


### (2) 採算(経常利益)の推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 17.3	▲ 17.7



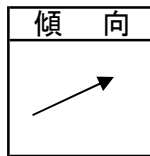
当期の採算のD・Iは、-17.3ポイントで、前期とほぼ横ばいである。「増加・好転」の企業は増加したが、「減少・悪化」の企業も同じ割合で増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、ほぼ同じ割合で「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期とほぼ同じ結果となっている。



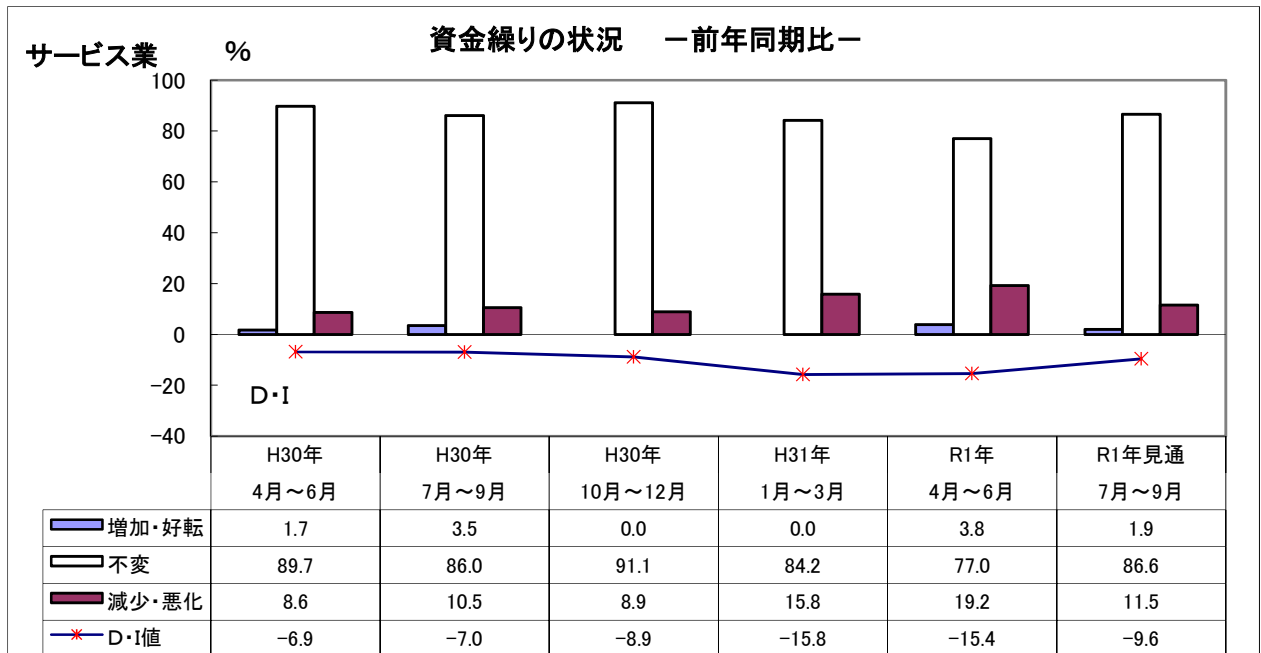


### (3) 資金繰りの推移

31年4月～6月 (実績)	1年7月～9月 (見通し)
曇時々雨 ▲ 15.4	曇 ▲ 9.6

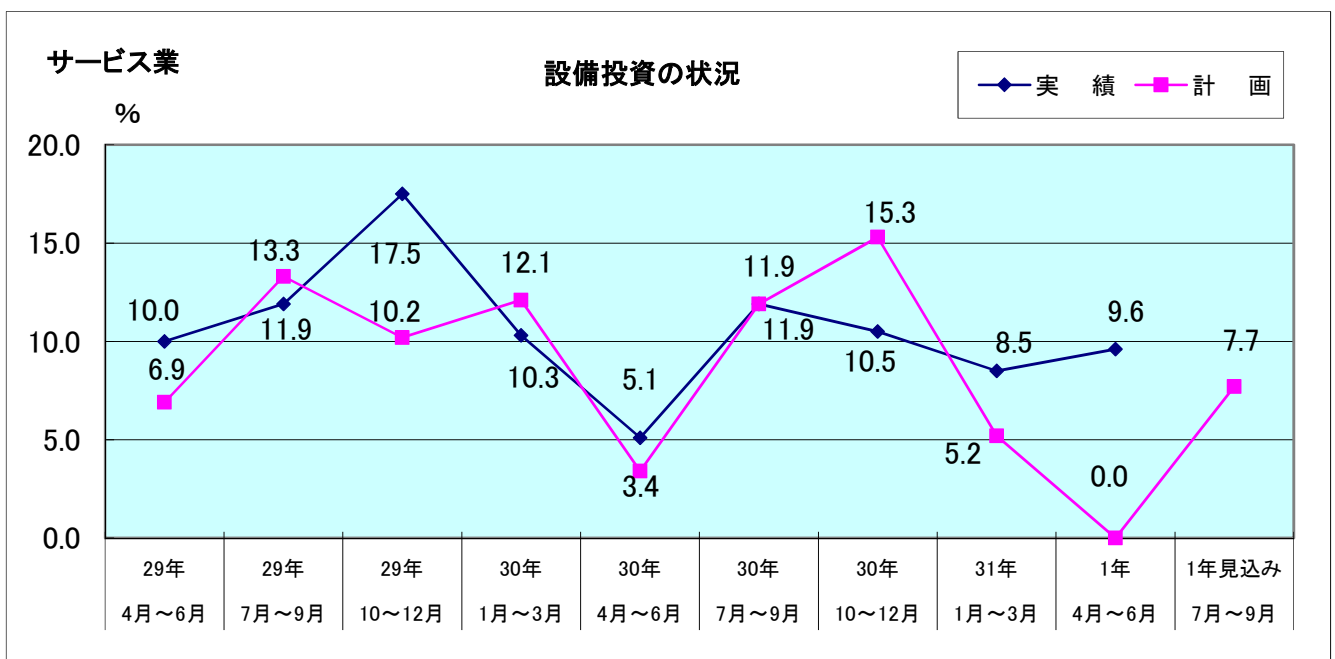


当期の資金繰りのD・Iは、-15.4ポイントと前期とほぼ同じであった。「増加・好転」とする企業が増加したが、「減少・悪化」とする企業も同じ割合で増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善する。



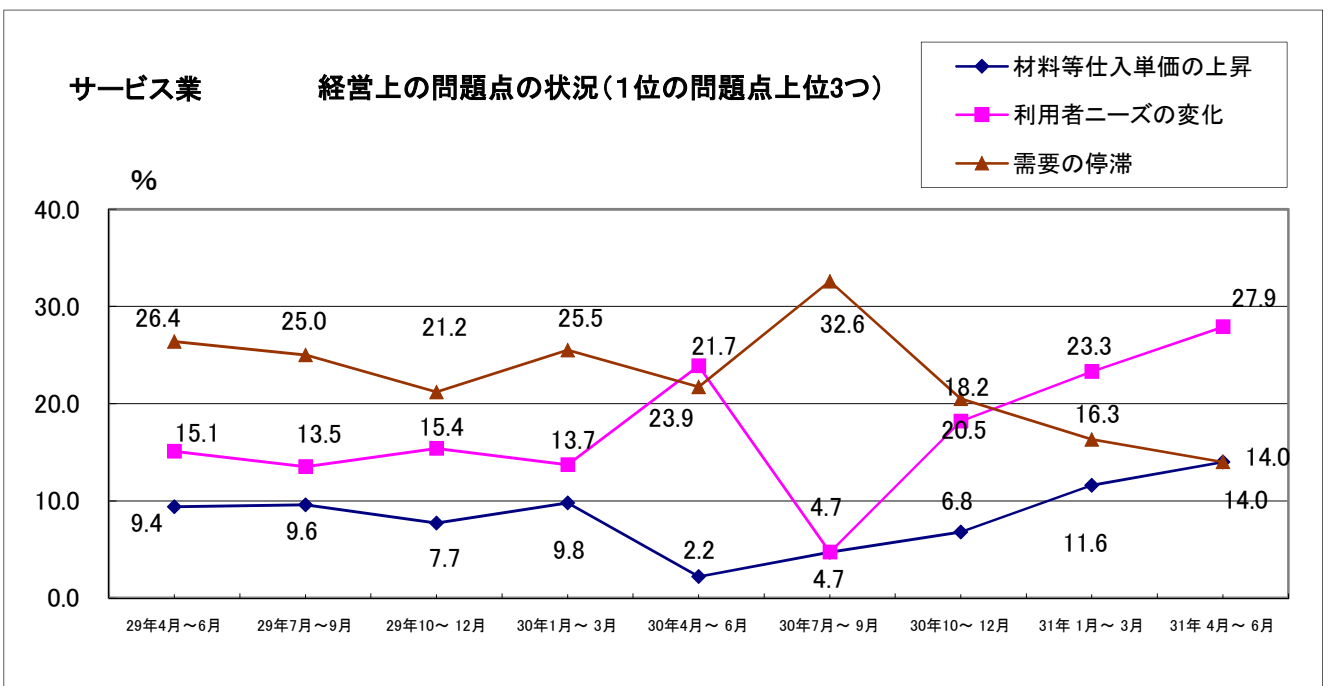
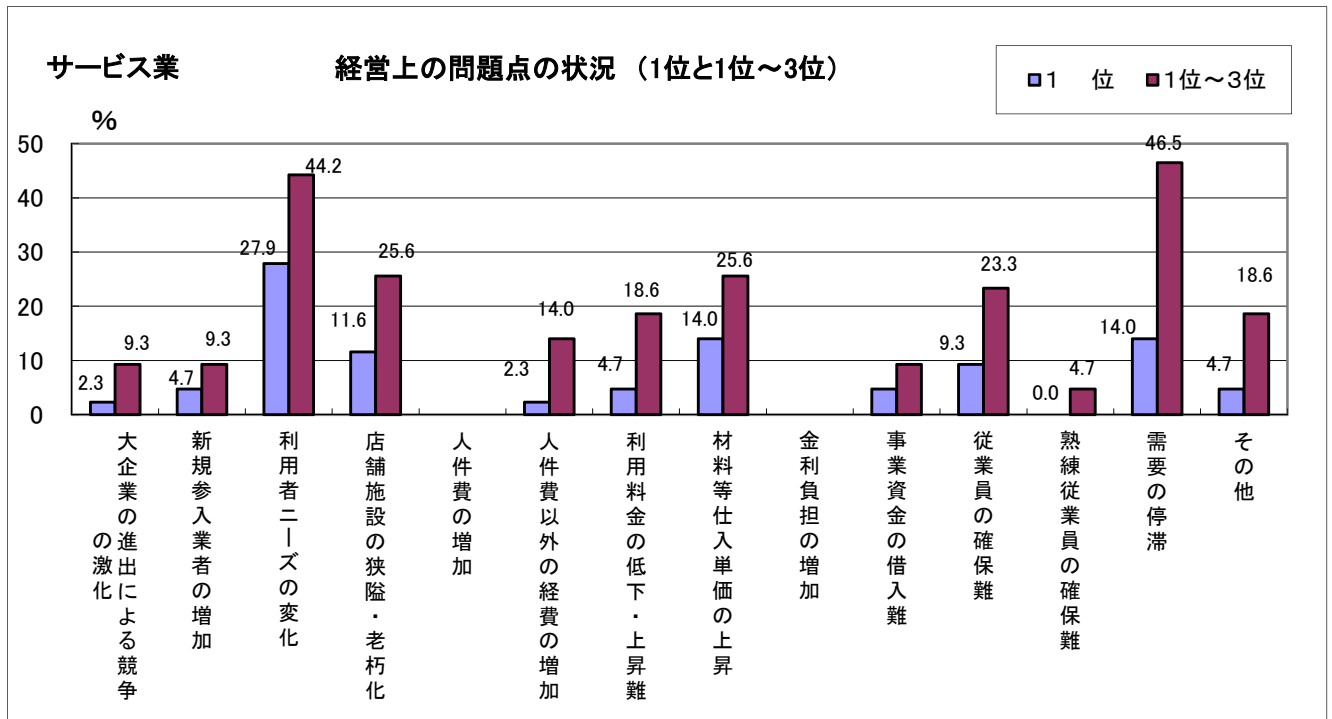
### (4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は0.0%であったが、計画を上回る9.6%の企業が実施した。内容は建物、車両運搬具、付帯施設等となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、7.7%との結果となっている。



## (5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「利用者ニーズの変化」で、2位が同率で、「需要の停滞」、「材料等仕入単価の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、「材料等仕入単価の上昇」となっており、(1位グループ)の問題点と傾向は変わらない。サービス業においても利用者ニーズの変化への対応が課題である。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績				見通し	
			平成30年	平成30年	平成30年	平成31年	令和1年	令和1年
			4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月
製造業	売上(加工)額	増加・好転	29.2	29.2	13.0	20.0	17.9	25.0
		不変	45.8	41.6	60.9	44.0	39.3	50.0
		減少・悪化	25.0	29.2	26.1	36.0	42.8	25.0
		D・I値	4.2	0.0	▲ 13.1	▲ 16.0	▲ 24.9	0.0
	採算(経常利益)	増加・好転	8.3	12.5	12.5	8.0	14.3	7.1
		不変	75.0	66.7	70.8	72.0	64.3	67.9
		減少・悪化	16.7	20.8	16.7	20.0	21.4	25.0
		D・I値	▲ 8.4	▲ 8.3	▲ 4.2	▲ 12.0	▲ 7.1	▲ 17.9
	資金繰り	増加・好転	12.5	12.5	8.3	0.0	7.1	0.0
		不変	75.0	79.2	79.2	88.0	82.2	88.9
		減少・悪化	12.5	8.3	12.5	12.0	10.7	11.1
		D・I値	0.0	4.2	▲ 4.2	▲ 12.0	▲ 3.6	▲ 11.1
設備投資	計画	8.0	12.5	20.8	8.3	25.0	10.7	
	実行	8.3	20.8	13.0	24.0	21.4		
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	27.3	23.8	19.0	22.7	34.8	26.1
		不変	59.1	61.9	71.5	63.7	39.1	56.5
		減少・悪化	13.6	14.3	9.5	13.6	26.1	17.4
		D・I値	13.7	9.5	9.5	9.1	8.7	8.7
	採算(経常利益)	増加・好転	13.6	14.3	9.5	13.6	30.4	17.4
		不変	86.4	71.4	85.7	63.7	69.6	82.6
		減少・悪化	0.0	14.3	4.8	22.7	0.0	0.0
		D・I値	13.6	0.0	4.7	▲ 9.1	30.4	17.4
	資金繰り	増加・好転	13.6	20.0	4.8	4.5	17.4	13.0
		不変	81.9	70.0	90.4	86.4	78.3	82.7
		減少・悪化	4.5	10.0	4.8	9.1	4.3	4.3
		D・I値	9.1	10.0	0.0	▲ 4.6	13.1	8.7
設備投資	計画	4.5	4.5	9.5	4.8	4.5	4.3	
	実行	9.1	4.8	25.0	0.0	13.0		
小売業	売上額	増加・好転	13.6	2.4	16.7	9.3	11.4	9.1
		不変	36.4	57.1	38.1	32.6	45.4	59.1
		減少・悪化	50.0	40.5	45.2	58.1	43.2	31.8
		D・I値	▲ 36.4	▲ 38.1	▲ 28.5	▲ 48.8	▲ 31.8	▲ 22.7
	採算(経常利益)	増加・好転	9.1	7.1	7.1	2.3	4.5	6.8
		不変	61.4	59.6	64.3	74.4	72.8	68.2
		減少・悪化	29.5	33.3	28.6	23.3	22.7	25.0
		D・I値	▲ 20.4	▲ 26.2	▲ 21.5	▲ 21.0	▲ 18.2	▲ 18.2
	資金繰り	増加・好転	4.5	4.8	4.8	0.0	0.0	0.0
		不変	70.5	73.8	71.4	76.7	84.1	84.1
		減少・悪化	25.0	21.4	23.8	23.3	15.9	15.9
		D・I値	▲ 20.5	▲ 16.6	▲ 19.0	▲ 23.3	▲ 15.9	▲ 15.9
設備投資	計画	4.8	6.8	2.4	4.8	9.3	13.6	
	実行	11.4	7.1	11.9	7.0	11.4		
サービス業	売上額	増加・好転	17.2	13.8	13.8	8.9	15.4	3.8
		不変	50.0	53.4	62.1	62.5	61.5	69.3
		減少・悪化	32.8	32.8	24.1	28.6	23.1	26.9
		D・I値	▲ 15.6	▲ 19.0	▲ 10.3	▲ 19.7	▲ 7.7	▲ 23.1
	採算(経常利益)	増加・好転	10.3	6.9	1.8	5.4	7.7	3.9
		不変	63.8	69.0	78.6	71.4	67.3	74.5
		減少・悪化	25.9	24.1	19.6	23.2	25.0	21.6
		D・I値	▲ 15.6	▲ 17.2	▲ 17.8	▲ 17.8	▲ 17.3	▲ 17.7
	資金繰り	増加・好転	1.7	3.5	0.0	0.0	3.8	1.9
		不変	89.7	86.0	91.1	84.2	77.0	86.6
		減少・悪化	8.6	10.5	8.9	15.8	19.2	11.5
		D・I値	▲ 6.9	▲ 7.0	▲ 8.9	▲ 15.8	▲ 15.4	▲ 9.6
設備投資	計画	3.4	11.9	15.3	5.2	0.0	7.7	
	実行	5.1	11.9	10.5	8.5	9.6		
産業全体	売上高							
	採算	▲ 8.5	▲ 11.9	▲ 10.6	▲ 18.9	▲ 13.9	▲ 9.3	
	資金繰り	▲ 7.7	▲ 12.9	▲ 9.7	▲ 15.0	▲ 3.1	▲ 9.1	
	業況	▲ 4.6	▲ 2.4	▲ 8.0	▲ 13.9	▲ 5.5	▲ 7.0	
		▲ 1.2	▲ 9.9	▲ 13.4	▲ 12.5	▲ 7.6	▲ 7.5	

# 中小企業景況調査報告書

令和元年6月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036